

第13回東アジア唐芋友好大会の概況について

(一財) いも類振興会理事長 **やの てつお**
矢野 哲男

東アジア唐芋友好協会では、日本と中国、韓国の三ヶ国で唐芋の栽培、加工、販売などの関係者、大学、研究機関、行政、報道などの幅広い有志が参画して、年一回の交流大会を三ヶ国の持ち回りで開催してきた。2025年は東京での開催で、11月11日、東京農業大学食料環境経済学科との共催により世田谷キャンパスの横井講堂において、第13回東アジア唐芋友好大会が盛大に開催された。翌12日には茨城県境町の干しいも製造現場ならびに 270年の伝統をもつ川越の蔵造り街（いも加工商品）を視察している。

今回の大会では、近年の異常気象等を背景に「今後の食糧危機にそなえて、カラー芋をどう活かすべきか」というテーマで講演・発表が行われた。以下にその概要を紹介する。

1. 基調講演

(1) 世界の食料安全保障におけるサツマイモの重要な役割

劉慶昌 中国農業大学教授

- ・FAO（2023）によれば、作物の中でサツマイモの収穫面積は第11位、生産量では第8位と重要な地位を占め、アジアが面積では37.4%、生産量では62.2%。
- ・中国は栽培面積が232万ha、生産量が5,162万tで、それぞれ世界の30.6%、55.2%を占め、単収は22.2t/haで世界平均の1.8倍。
- ・国内は、単収が最も高い北方地区（でん粉・生食用）、面積が最も大きい西南部地区（生食用・でん粉用）、面積が減少傾向の長江中下流域（加工・生食用）、面積が増加傾向の南方地区（生食用・加工用）の4地域に分かれる。
- ・品種は兼用型（でん粉・食用）、でん粉型、食用型、葉菜型、高アントシアン型、高



カロテン型。

- ・現在は乾燥地など条件不利な土地で栽培されており、増産の余地が大きい。
(試験結果では3倍程度の単収が得られている)
- ・今後、栽培技術の改良により収量の向上と生産コストの削減が可能
(ウイルスフリー化、健康な苗の育成、マルチ被覆、施肥の改良、機械化)
- ・仕向先は加工用が55% (うち7割はでん粉で春雨等に加工)、食用が29%、飼料用が8%、種子用が8%
- ・国内には多くのサツマイモ産業団地や鎮(村)、加工企業があり、様々な商品が製造されていることがスライドで紹介された。

(2) 気候変動に立ち向かう海南の選択

サツマイモを見直す

朴 正童 海南農業技術センター所長

- ・韓国でも過去100年の間(1912~2017)に年平均気温が1.8℃上昇し、温暖化が進行。降水量も年間で163mm上昇し、地域的に両極化が進行。
- ・猛暑や熱帯夜の日数増加により、高温多湿性病虫害の拡散や光合成の低下と水分ストレスの深化、同化産物の枯渇等が生じている。
- ・2023年にはサツマイモ基腐病が発生し、被害面積は200ha前後で全体の約1割。翌年にはジャンボタニシ、トビイロウンカ、稲のコウコムシによる被害が発生。
- ・韓国の食料自給率は20.2%まで低下しており、脆弱な穀物在庫と相まって国家の完全保障にとって脅威となっている。
- ・農作物の作付面積も、全国では1975年か

- ら2020年までの間に64%、減少している中で海南郡は増加傾向で推移。(サツマイモは横ばい、ジャガイモは増加)
- ・ただし、塊根肥大期の猛暑日数や栽培期間における局地的豪雨や干ばつ被害が増加している。
- ・このような状況の中で、サツマイモや単位面積当たりの生産カロリー、扶養可能人口は他作物よりも大きい。(米の3倍)
- ・生育の柔軟性、高温適応性、干ばつ耐性、加工活用性などの面からサツマイモの価値が見直されており、従来の食糧作物としての役割に加えて、医薬やバイオエタノール、更には加工食品への産業的利用の拡大が見込まれている。
- ・上記の加工利用の具体例がスライドで示され、最後に海南郡では、サツマイモによる持続可能な農業の展開を目指していることが紹介された。

(3) 我が国における食料安全保障の実態とカライモが果たす役割

堀田和彦 東京農業大学名誉教授

- ・現在、アジア各国の経済発展、穀物のバイオエタノール利用、世界的な天候不順による供給の不安定化、ロシア(肥料輸出国)とウクライナ(穀物輸出国)の紛争等により世界の食料需給の不安定要因が拡大。
- ・世界ならびに日本の食料需給の推移と予測に関するデータをスライドで紹介。
- ・食料農業農村基本法では、食料安全保障を「国民が将来にわたり良質な食料を合理的な価格で安定的に入手できる状態を指し、その確保は不可欠」と定義。
- ・不測時の対応については、予兆段階での

連携強化、備蓄の活用、輸入の拡大、生産の増強、流通の制限・管理で対応することが法律で明文化。

- ・ カライモが持つ生産面での特性（高温・乾燥耐性、痩せ地・酸性土にも耐える等）や、消費面での特性（ビタミン類、食物繊維、多様な食材への加工適性等）から、カライモは今後の食料安全保障にとって重要な作物。
- ・ 不安定な食料供給局面を迎える前から、より一層の利用促進、発展を検討しておくことが必要。

2. 研究発表

日本の農地保全と食料安全保障

－茨城県における荒廃農地再生と甘藷生産から－

功刀陸大 東京農業大学大学院

- ・ 日本における食料安全保障と甘藷生産について、食料安全保障の確保の実態を農地という最も基本的な指標で整理し、その上で甘藷の政策的な位置づけを確認し、実際に荒廃農地を再生して甘藷生産に取り組んでいる事例をレポート。
- ・ 耕地面積は非農業用途への転用や荒廃農地の増加により、一貫して減少傾向にあり、1961年～2024年間の農用地開発が約115万haに対して、転用や荒廃は約297万ha。
(荒廃農地は、現に耕作に供されておらず、荒廃して通常の農作業では栽培が客観的に不可能な農地)
- ・ 活用可能な農地や農業資源をフル活用することで得られる1人・日当たりのカロリーを試算すると、甘藷などの「いも類中心の作付け」により、推定エネルギー

必要量(2,167kcal/人・日)はカバーできる。

- ・ 政府による農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略は、海外市場の獲得により農業生産基盤の維持と食品産業の発展を通じて食料安全保障の確保を図るもの。
- ・ 日本産甘藷は甘く、スイーツとして人気があり、青果、加工品共に需要が拡大傾向。
- ・ 茨城県は甘藷の作付面積と生産量は全国第2位だが、産出額では第1位。一方で、荒廃農地の再生面積も累計で8,465haと全国第1位。
- ・ 県単事業である「茨城かんしょトップランナー産地拡大事業」により、甘藷生産と干しいも加工取組んだ2事例(株式会社ユタカファーム 22ha、株式会社芋助 20ha)を紹介。

3. 事例発表

(1) 鹿児島におけるからいもについて

海老原純一 鹿児島の食を学ぶ会

- ・ 鹿児島県農業高校に勤務する間、鹿児島県農業試験場に出向し、作物部主任研究員(稲・麦・大豆担当)として勤務。現在、2校の農業高校で非常勤講師、鹿児島県有機農業協会の有機JAS検査員、鹿児島市食育推進支援委員、食育アドバイザー。
- ・ 郷原会長と共に、からいも Rond(講話&料理講習)を実施した際の状況をスライドを使って紹介。
- ・ 日々、刊行している「えびじゅん食育タイムズ」のうち、サツマイモ関連のものを紹介。(サツマイモでん粉、あめんどろ他)

(2) COLORED SWEET POTATO

郷原拓東 東京農業大学OB

- ・オリジナルの唐芋ケーキを製造販売する会社を設立した際に、フランスの「人間国宝」パティシエであるデビット・ヴェスマエル氏（M・O・F：フランス国家最優秀職人章）を招いて商品開発を依頼。
- ・同氏は初めてカラー芋に出会って衝撃を受け、「これは奇跡の食材だ」と明言。
- ・理由は、ケーキの素材そのもので色が出せることから一般的には必要な着色料が不要、色によって味や栄養分、健康機能等が異なる、メインテーマ（原料）として使えること。カラー芋のアイスクリー

ムが冷やした方が美味しくなることにも驚いた。

- ・実際に自分で作って食べるのが肝心。家庭で出来る「カラー芋ペースト絞り」のレシピを紹介。
- ・このほか、カラー芋を用いた製品のレポーターを紹介。

4. 次期開催地紹介

2026年は、韓国の農漁村の首都、海南郡で開催することとなり、海南農業技術センターの朴所長から現地の農業事情等について説明が行われた。



挨拶する日中韓の代表

日本：東アジア唐芋友好協会 郷原茂樹 会長
中国：河北省鮮食甘薯产业技术研究院 崔伏喜さん
韓国：海南花山農協組合 呉相湊 組合長